

研究主題	<b>5. &lt;健康・安全&gt;</b> <b>子供たちの健康・安全を守るために</b> <b>～学校・地域・家庭の連携～</b>
------	--

## 三島市立沢地小学校PTA

### はじめに

三島市立沢地小学校は、沢地の平坦地にあり、山や緑に囲まれ、運動場の南側を沿うように沢地川が流れている。5月下旬から6月上旬にかけては沢地川に多くの蛍が飛び交い、夜になると多くの見物客が訪れる。

また、校庭のサクラや通学路のアジサイは、地域ボランティアの方々によって施肥や剪定が行われ、毎年見事な花を咲かせている。平成になり、「三島沢地工業団地」ができたり、「東駿河湾環状道路（伊豆縦貫自動車道）」が開通したりしたことで、周辺の道路の交通量はかなり増加しているが、学校の周辺はまだまだ閑静で、子供たちが学習活動を行う場としてはきわめて環境のよい所であると言える。

令和5年度に開校50周年を迎え、令和6年度全校児童は263名、各学年2学級という規模である。日頃から、上級生が下級生の面倒をよく見ており、クラスの枠を超えて関わり合う姿が多く見られる。

地域とのつながりも深く、スクールガードの皆さんは、地区のすべての子供の名前を覚えてくださっており、子供たちもスクールガードさんの名前を覚え、毎日あいさつを交わしたり、学校でのできごとを話したりする間柄になっている。

本校では、「スクールガード紹介の会（1年生）」や「地域の方に感謝する会（全校）」、「ス

クールガード連絡会」等が年間計画に位置づけられている。



〈下校を見守るスクールガードの皆さん〉

中でも「地域の方に感謝する会」は、引き渡し訓練の際に行う。日頃から、お世話になっているスクールガードの皆さんに、保護者からも感謝の気持ちを伝えるため、毎年親子がそろってこのタイミングで行っている。



〈地域の方に感謝する会〉

## 1. 努力目標（研究の重点）

本校は、地域とのつながりを大切にした教育活動を行っている。学校・地域・家庭が連携し関わることで、子供たちの心の健康や安全を守っていくことができるのではないかと考えた。そこで、以下の2点を重点として、実践と研究を進めた。

- ①地域の大人が積極的に子供たちに関わっていくことで、地域全体で子供たちの健やかな心を育み、安全を守っていく。
- ②あいさつ運動を通して、話ができる友達や地域の顔見知りを増やすことで、心の健康や防犯につなげる。

## 2 実践の経過

### (1) 「粋なおやじの会」の活動

スクールガードと共に、地域の大人として、子供たちとの関わりが深いのは、「粋なおやじの会」である。この会は、PTA組織の健全育成部から派生した組織であり、保護者や保護者OBの有志で運営している。毎年4月に募集をかけており、近年では父親に限らず、母親にも声をかけている。学校行事の手伝いや、校地の環境整備だけでなく、独自の楽しい企画も行っているのが特徴である。



〈運動会でのテント張り〉

しかし、コロナ禍で令和4年までは、子供たちが喜ぶ楽しいイベントを行うことができなかった。学校行事の手伝いとして行う、入学式・卒業式での写真撮影、運動会でのテント張り・片付け、PTA整備作業やアジサイ剪定、サクラの施肥作業など、最低限の活動にとどまっていた。



〈PTA 整備作業〉

令和5年度5月に新型コロナウイルス感染症が5類となり、ようやく、以前のような活動を行うことが可能になった。6月には、「イザ！カエルキャラバン」という防災について楽しみながら学ぶことができるイベントを行った。不要になったおもちゃを持ってきて他のおもちゃと交換できるコーナーもあり、好評であった。



〈イザ！カエルキャラバン！〉

8月には、「学校に泊まろう」という防災宿泊イベントを実施した。このイベントは、コロナ禍以前、子供たちがとても楽しみにしていたイベントで、粋なおやじの会の目玉イベントと言える。熱中症の心配もある中で行ったが、宿泊・日帰りも合わせて、100名を超える児童が参加するほどの盛況ぶりであった。

この防災合宿で特筆すべきは、粋なおやじの会のみでの運営ではなく、保護者ボランティアや、本校を卒業した中高生ボランティアが参加してくれたことだ。すべてをおやじの会に任せるのではなく、自分の子供とともに参加し、地域の大人として子供たちを見守ってくれた保護者が多くいたのは大変ありがたかった。

また、中高生ボランティアに参加理由を聞くと、「小学生の時にはできなかった肝試しのオバケ役をやりたいかったから。」「自分たちが小学生の頃参加して本当に楽しかったので、今度は自分たちが小学生を楽しませたいと思った。」など、自分たちの思い出をもとにした意見が寄せられ、地域の子供たちの縦のつながりや、地域で育った子供たち（中高生）の頼もしさを感じた。



〈学校に泊まろう（夏休み防災合宿）〉

1月に行った「どんど焼き」は、地域の行事としても根付いており、沢地小の子供たちだけでなく、地域の皆さんがたくさん参加してくださって、大盛況に終わった。



〈どんど焼き〉

このように、PTA活動の一端を担う「粋なおやじの会」の活動により、子供たちが学校の中だけでなく、地域の大人や中高生とつながりをもつことができたと言える。

## (2) 2年間のあいさつ運動を通して

本校は、令和4年度から令和5年度まで、山田小、山田中と共に県のあいさつ運動協力校となり、あいさつ運動に力を入れてきた。子供たちが校内であいさつ運動をがんばっていることを知り、PTAとしても、何か協力できることはないかと考え、実践していった。

### 令和4年度の実践

「富士山に心が届くあいさつを」というスローガンのもと、校内では、児童会があいさつ運動の推進役となり、毎月学年ごとのアイデアによるあいさつ運動を行っていた。従来の昇降口に立ってあいさつをするというようなあいさつ運動だけでなく、創造力に富むおもしろい活動が生まれ、次第に全校であいさつを楽しむ雰囲気が出てきた。

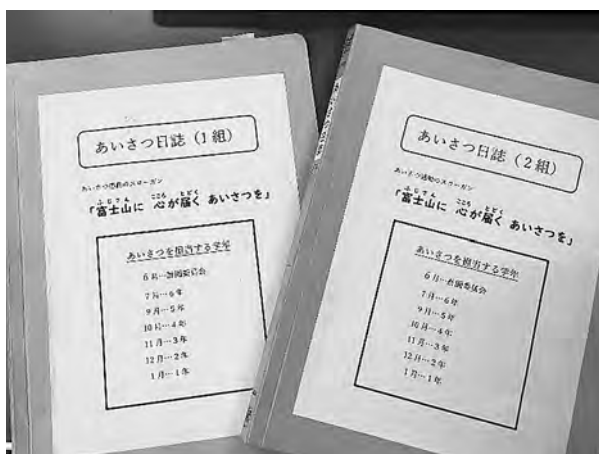




〈校内でのあいさつ運動の様子〉



〈歌とダンスによるあいさつの推進（1年）〉



〈あいさつ日誌〉

各学年の企画によるあいさつ運動が一通り終わり、あいさつへの気運が高まった頃、児童会が中心となり、「今後どんなあいさつをしていきたいか」と、あいさつの質を高めていくための話し合いを進めていった。ルーティンとしてのあいさつではなく、相手意識をもつ

た心のこもったあいさつにしていこうと、全校の意見が集約されていった。最終的に以下の4つをあいさつの柱とした。

①元気あいさつ

相手に聞こえる声で自分からあいさつをする。

②ていねいあいさつ

相手の顔を見て相手の近くであいさつをする。

③うれしいあいさつ

相手の名前を言って笑顔であいさつをする。

④みんなにあいさつ

他のクラス、学年、地域の方などに進んであいさつをする。

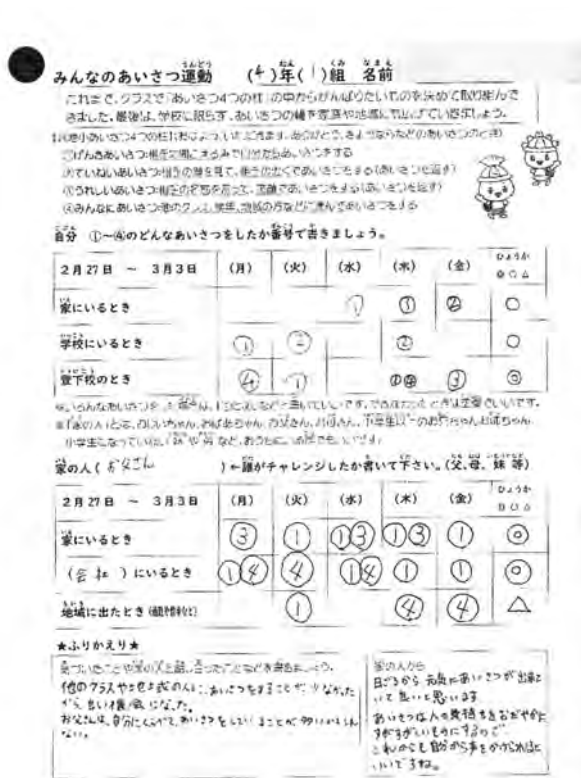
令和4年度のまとめとして、各クラスで①～④の中から重点を決め、その重点を意識してあいさつを行っていった。



〈重点とするあいさつの表明〉

このような経緯を受け、PTAとしても協力したいという話になり、PTA主催のあいさつ運動を考えていくこととなった。しかし、実際に路上に立ってあいさつ運動をしてもらうのは保護者にとって負担感が大きく、日程や場所を分担する作業も容易ではない。まずは、なるべく簡単な方法で、取り組むことにした。

そこで、子供たちが自分のあいさつを振り返ると同時に、大人も日々のあいさつを振り返り、家庭や地域の中であいさつする姿を見せていこうということになった。振り返りは、子供たちの決めた4つの柱を使うことで、校内のあいさつ運動とのつながりを意識できるようにした。そして、このあいさつ運動は、児童と保護者に限定するのではなく、祖父母や中高生の兄姉、未就学の弟妹など、誰でも参加できるように、柔軟性を持たせることで、家庭ひいては地域のさまざまな世代にあいさつの輪を広げていけるようにした。幅広い層へのあいさつ啓発の意味も込めて「みんなのあいさつ運動」と題して、1週間の期間を設けて実施した。



「みんなのあいさつ運動」使用カード

～子供たちの感想より～

- ・あいさつをするとお互い気持ちよく過ごせることがわかった。
- ・あいさつは相手の顔を見て、気持ちを伝え

ることが大事なのだと思います。

- ・あいさつする機会が増え、仲が深まった。
- ・自分が進んであいさつをするとたくさんの人が返してくれて、そこからどんどんいろんな人に届いて「あいさつの輪」が広がっていくのを実感できた。
- ・あいさつをすると学校が楽しくなった。
- ・あいさつをすることで、身の回りの空気が変わって、自分の心が明るくなり、細かい不安もなくなる気がした。
- ・あいさつをすると友達が増えると思った。
- ・あいさつをすると笑顔になれるし、そのままいっしょに話せるきっかけになった。
- ・地域の人にも、あいさつができるようになった。
- ・地域の人にあいさつをするようになったら、近所の人に顔を覚えられるようになったのでよかった。

～家庭から～

- ・あいさつは人の気持ちを穏やかにすがすがしいものにするので、これからも自分から声をかけられるといいですね。
- ・あいさつをすると自分自身も相手も笑顔になれるので、お互い気持ちがいいものです。
- ・周りの人たちとよい関係を築き上げていくために、あいさつは欠かすことができないことのひとつです。
- ・今回のあいさつ運動で、家の人(兄)にもチャレンジしてもらったことで、本人の意識も高まったと思います。
- ・朝ゴミ出しに行く途中で出会った子供たちが笑顔であいさつをしてくれて嬉しかったです。
- ・あいさつはコミュニケーションの基本で、あいさつをすることで地域の人とのつなが





- ・去年よりもあいさつが上手になった。おじぎや笑顔であいさつができた。
- ・あいさつをすれば友達も自分もいい気持ちになれて、よろこんでもらえてうれしいからこれからも続けようと思う。
- ・近所の人に進んで大きい声であいさつできてほめてもらいました。
- ・学校だけでなく、スクールガードさんや近所のおじさん、おばさんにもあいさつできた。
- ・お母さんが一緒に1週遠回りしてから仕事に行ってくれたので、地域であいさつができる人が増えた。
- ・このあいさつ運動がきっかけで知らない人にも進んであいさつできてよかった。これからも続けたい。
- ・地域の方々にもあいさつをしたり、学校では他学年とすれ違ったときにあいさつをしたりすることを心がけました。

～PTA家の前あいさつ運動実施後の感想～

- ・散歩に出かけた際もすれ違う人にあいさつしている様子をも見かけます。あいさつされた年配の方はうれしそうです。
- ・沢地小の子はいつも元気にあいさつをしてくれ、学校での出来事を話してくれます。社交的でみんなかわいいです。
- ・あいさつ運動のおかげで近所の方にも自分からあいさつする意識が生まれた。
- ・スクールガードの方へはあいさつのできる子が多かった。関係性ができている。
- ・子供たちもPTAのみなさんもスクールガードさんもととても気持ちよくあいさつしていてすばらしい地域だと思います。
- ・一人一人が少し意識するだけで、地域が明

るく活気のある雰囲気になると、感じました。

- ・今回のあいさつ運動をきっかけにあいさつの大切さや地域の見守りのありがたさを感じた。大人が手本になるようにしたい。
- ・近所の人がわかったり、普段散歩をしている人などを知れたりしました。
- ・ご近所の方とはいつも元気にあいさつをしているので、子供たちの顔もおぼえてもらえていて、見守ってもらえているなあと日々感じている。
- ・息子は明るく元気にあいさつできない分、母が元気にあいさつをして近所の人に顔を覚えておらおうと一緒に登校していた1年生の頃を思い出し、普通にあいさつできるようになったのは成長だなあと感じた。
- ・朝だけで、下校時には立てなかったが、下校時も大人が立っていれば安心安全な登下校の見守りになると思った。
- ・下校時のみ実施しました。子供たちの安全にもつながるのでよかったと思います。指定の場所でなく、「家の前で」というのも参加しやすくよかったです。
- ・毎日通学路で少しの間子供たちを見送っていますが、ほとんどの子があいさつを返してくれる。地域の他の学年の子たちとも顔見知りになれて、やっていてよかった。





〈家の前あいさつ運動の様子〉

実施期間中、雨の日が多かったため、実際に家の前であいさつをしてくださった家庭は5割程度だった。しかし、未実施の方からの意見も合わせて、大人も子供もよりよいあいさつについて考えるきっかけとなったと感じている。家の前であいさつ運動を行った保護者からは、近所の子から声をかけてもらい、子供の友達関係がわかったという感想や、スクールガードさんが子供たちとよい関係を築き、日々見守ってくれていることに改めて感謝する感想が多く寄せられた。

### 3. 実践の反省と評価

普段から子供たちを見守ってくださっているスクールガードの皆さんとのつながりを大切にしたり、PTAの株組織でもある「粋なおやじの会」の活動を皆で盛り上げたりしていくことで、地域の多くの目で子供たちの安全を見守っていく体制ができているのが沢地小の強みである。

PTA主催のあいさつ運動では、子供たちの活動からのつながりを意識することで、学校から地域・家庭への接続や連携をはかることができた。

令和5年度の学校評価アンケートの「沢地小の子供のよい所はどんな所か」という保護者か

らの自由記述では、「あいさつがよくできる」という回答が多く見られた。地域の中で、子供たちがしっかりとあいさつをし、地域の方とのつながりを深めていることの表れだと言える。

あいさつを通して、心が明るくなることや地域の方とのつながりを深まることを実感した感想が子供たちから多く寄せられたのも成果の表れであると言える。

### 4. 今後の課題

今回、子供たちの校内での実践を応援する形で、PTA主催のあいさつ運動を実施したことは、あいさつへの意識を高める上で効果があったと言える。

また、粋なおやじの会の活動に保護者や地域の中高生が関わってくれてことで、子供たちの地域とのつながりが深まったと言える。

やはり、学校・家庭・地域が一丸となって子供たちを見守り育てていくことがとても大切であり、効果的であると感じた。

近年、PTA活動の在り方が問われている。忙しい保護者が多い中で、いかにPTA活動のよさを伝え協力者を増やすか、そして、誰でも取り組みやすい、関わりやすいPTA活動を考えていくことが課題であると言える。今後も、地域の大人が積極的にかかわり、子供たちの健やかな心を育んだり、安全を守ったりしていけるよう、持続可能なPTA活動の在り方について考えていきたい。

また、大人任せになるのではなく、子供たち自身も防犯意識を高めたり、交通安全の意識を高めたりできる取組も考えていきたい。